

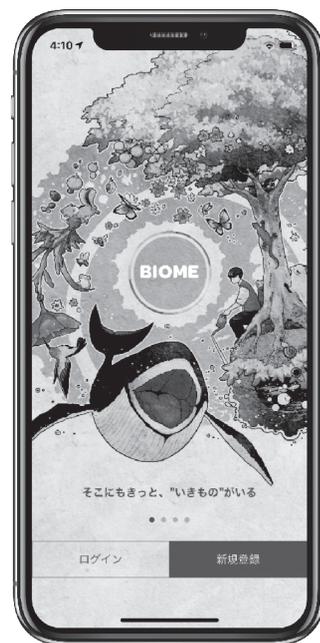


奄美大島モデル地区における

スマートフォンを用いた ロードキル情報収集サービスの開発

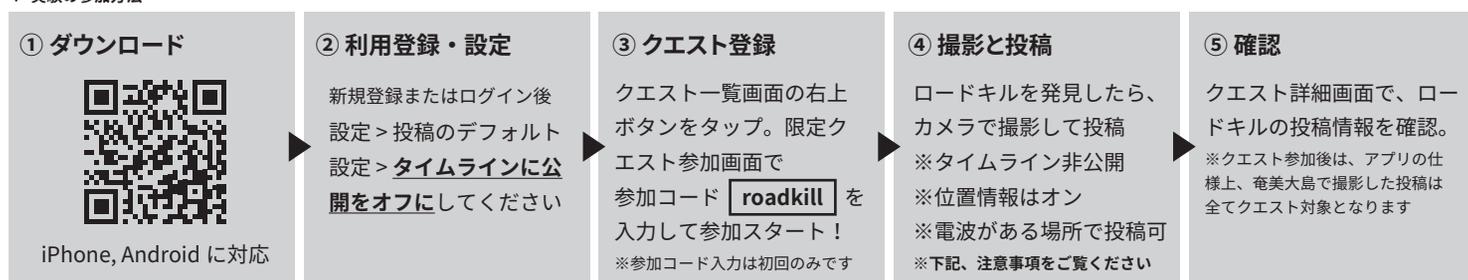
2019年10月1日～2020年3月31日

ロードキル対策やロードキル研究を加速させるためには誰でも簡便にロードキルの情報を収集・蓄積するためのプラットフォームが必要です。本実証実験ではスマートフォンアプリを利用したロードキル報告の試用版として、アプリ「Biome（バイオーム）」を用いて、正確なデータ収集の可否および利便性について検証します。



スマホアプリ「Biome」

▼ 実験の参加方法



期間	2019年10月1日～2020年3月31日
場所	奄美大島・島内全域の道路
参加資格	レンジャーなどロードキルに関心が高い人
参加方法	(1) ロードキルを発見したらスマートフォンのカメラで撮影 (2) バイオームアプリで該当の写真を投稿する
事前準備	アプリ「バイオーム」をインストールし、クエストに参加登録してください。 ・カメラの位置情報取得（GPS 情報）をオンにしてください ・位置情報が付加されている写真のみが投稿できます。
利用上のご注意	以下の利用方法を厳守いただきますようご協力お願いします。 ・種名は分かる場合は撮影後「種名を検索する」をタップして、種名を検索して確定にすんでください。種名が不明な場合は推測で結構ですので種名を決定して投稿へ進んでください。 ※しつもん投稿はクエスト対象になりません。 (投稿時の注意) ・投稿時には、タイムラインに非公開を選択してください。他のユーザーへのご配慮をお願いします。 ・バイオームアプリには「グロ画像フィルター」が設定されています。哺乳類などの血が写り込んでいる写真は投稿できない場合がありますので、少し遠目（広め）に撮影してください。 ・アプリの仕様上、クエスト参加後は奄美大島で投稿した生き物は全てクエスト対象種となります。

クエストについて

『クエスト』は、ターゲットとして指定されたいきものを期間内に発見・投稿してクリアを目指す、アプリの機能の一つです。本実験では、アプリから奄美大島におけるロードキル個体を対象とした限定のクエストに参加していただきます。

実験の背景と目的

交通インフラが発達するにつれ、ロードキルの問題は世界中で日に日に大きくなっています。日本は、狭い国土に道路が縦横無尽に張り巡らされており、全国の至る所でロードキルが発生していると考えられています。

国内ではロードキルに関わる研究者の数が少ないだけでなくロードキルのデータは殆ど集まっていません。また、絶滅が危惧されている希少種のデータだけでなく、普通種のデータも十分に蓄積されていないのが現状です。データ不足の理由としては、国内の道路ではロードキルのデータがただの記録として収集されるだけで、数年後には破棄されてしまうことが挙げられます。

一方、海外では市民がロードキルの被害を受けた生物の種名や場所などを記録するシステムが存在しています。そこで「Biome」などのアプリを利用し、市民が発見したロードキルの情報を収集・蓄積できないかという案が浮上しています。

得られたデータは研究に利用できます。海外では、オープンデータとして活用されている事例があります。結果として、道路管理者が事故防止の対策を講じることができるとも考えられます。実証実験の参加・ご協力宜しく願いいたします。

<実証実験の責任者・お問い合わせ先>

帯広畜産大学環境農学研究部門特任講師 浅利裕伸

電話：0155-49-5500 E-mail：asari@obihiro.ac.jp

株式会社バイオーム

世界中の生物の分布情報を集めてビッグデータ化し、環境ビジネスのプラットフォームを構築する事業に取り組む京都大学発のベンチャー企業です。経済産業省が選定する『J-Startup』に選ばれ（2018年）、第5回京信・地域の企業家大賞で最優秀賞受賞（2018年）や、京都市目利き委員会Aランク認定（2019年）など、様々な受賞歴を持つスタートアップです。

<アプリのお問い合わせ先>

株式会社バイオーム

WEB：https://biome.co.jp

電話：075-432-7622

E-mail：info@biome.co.jp